

031105 金融審

金融審議会金融分科会第1部会(第11回)

「投資教育のあり方について」

日本ファイナンシャル・プランナーズ協会 紀平正幸さんの  
プレゼンテーションに関する意見

藤田 太寅

投資教育のあり方について紀平さんが、とくに学校教育では経済教育の一環として位置づける必要を強調なさったことは非常に大切なように思います。

これまでの議論ではとかく、消極的な人を投資に向かわせるためにとか、市場に資金を誘導するために、などといった証券市場にとって都合のよい響きが残る意見が勝っていたような印象です。そのような印象を持ったのは私だけでしょうか。

わたくしは、学校教育をそのような目的に利用するのはいかがかと存じます。学校教育でまず考えるべきは児童・生徒の知的発達を第一とすべきで、証券市場活性化に学校教育が動員されるようなことはあってはならないと思います。

児童・生徒らに社会を理解させるための経済教育がまずあり、その一環として投資や貯蓄についての基本知識を教える、という順序でしょう。その意味で紀平さんが「経済教育～投資教育」の関連性を主張なさった点を私は重視したいと考えます。

証券市場ないし証券業界が大方の国民に信頼されていないことは、きょう配布された資料1-1でも明らかであり、証券業界が前に出れば出るほど要らぬ誤解を生むことになりはしないか心配します。

いずれかの方法と手順で学校教育で投資に関する教育をする必要は私も認めますが、それはあくまで児童・生徒のためであり、いま流行の言葉で言えば彼ら、彼女らに「生きる力」を授けるためであるべきです。市場や業界のためであってはならないし、そう誤解されるのも避けなければならないと思います。

###